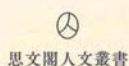


〒605-0089 京都市東山区元町 355
tel075-533-6860 / fax075-531-0009
e-mail:pub@shibunkaku.co.jp

<https://www.shibunkaku.co.jp/publishing/list/>

民衆仏教の形成
と
日本中世

上川通夫著



上川通夫 著
民衆仏教の形成と
日本中世

【思文閣人文叢書】

2025年3月刊行

定価: 11,000 円(税10%込)

▶A5判 504頁 ISBN 978-4-7842-2103-5

かみかわみちお…1960年 大阪市生まれ。1989年 立命館大学大学院
文学研究科博士課程修了。1994年～ 愛知県立大学文学部、同日本文
化学部勤務。現在 同日本文化学部教授。〔主要著書〕『日本中世仏教
成立史論』（2007年、校倉書房）、『日本中世仏教史料論』（2008年、吉
川弘文館）、『日本中世仏教と東アジア世界』（2012年、塙書房）ほか

国家宗教として日本に導入された仏教は、中世にいたって広く社会に定着したとされる。ただし中世仏教は、権門体制論や顕密体制論において、権力側が民衆を編成し、抑圧する装置としての側面が強調されている。はたして中世の民衆は仏教を押し付けられただけの存在なのか？

本書は、民衆自身の生存と権力支配への抵抗を求める普遍的思想が、仏教の用語や思想（慈悲、不殺生、和合など）と接することで表現された可能性を追求する。断片的ながら願文、起請文、村の禁制、地域の小規模寺院の存在などに史料の痕跡を見出し、民衆思想として萌芽した状況を浮かび上がらせる。

《内容目次》

序 章 日本中世民衆仏教研究の課題

第一部 ユーラシア東辺列島における仏教導入

- 第一章 六、七世紀における仏書導入
- 第二章 古代仏教と最澄の一乗思想
- 第三章 入唐求法僧と入宋巡礼僧
- 第四章 北宋・遼の成立と日本
- 第五章 十世紀における地域社会の胎動
- 第六章 十一世紀の如法経と経塚
- 第七章 十二世紀真言密教の社会史的位置—大治と建久の間—
- 第八章 十二世紀日本仏教の歴史的位置

第二部 中世民衆仏教の可能性

- 第一章 写経と印信—平安期仏教の展開と転形—
- 第二章 経塚・造仏・写経—民衆仏教形成の条件—
- 第三章 起請と起請文
—永暦二年（一一六一）永意起請木札をめぐって—
- 第四章 『平家物語』と中世仏教
- 第五章 勧進帳・起請文・願文
- 第六章 寺院縁起と地域社会—三河・尾張の山寺—
- 第七章 中世の巡礼者と民衆社会—出土禁制木簡から—
- 第八章 中世民衆思想の探究—木札・像内文書・仏書を例に—

結 章 民衆仏教から民衆思想へ

初出一覧／あとがき

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
<https://www.shibunkaku.co.jp> E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

仏師快慶の研究

奈良国立博物館編

2017年に奈良国立博物館で開催された特別展「快慶—日本人を魅了した仏のかたち—」では、現在知られている快慶作品の約8割が一堂に会する史上空前の内容が実現した。

この快慶展とその後の調査で得られた知見を、快慶全作品の大判カラー写真とともに収録した快慶研究の決定版。

- ・現存するすべての快慶作品（42点）と関連作品（21点）を大判カラー写真で掲載。写真は正面のみならず、側面、背面、部分拡大など、初公開のカットを多数含む。
- ・像底、銘文など快慶に関わる基礎資料を網羅。X線CTスキャン画像など最新鋭の機器による初公開情報も満載。

▶B4判・604頁／定価 77,000円(税込) ISBN978-4-7842-1969-8



『今昔物語集』の成立と対外観

思文閣人文叢書

荒木浩著

10世紀後半の奄然の渡来・帰国と一切経の請来のインパクトを受けて進展した対外交渉や書物の輸出入、仏教的世界観の中での和国意識の高まりという対外観に注目しつつ、古代説話集の成立から『今昔物語集』の生成へという文学史、仏教文化史の潮流を論じる。

▶A5判・460頁／定価 9,900円(税込) ISBN978-4-7842-2015-1

撰関・院政期研究を読みなおす

有富純也・佐藤雄基編

撰関・院政期は、戦後歴史学において古代から中世への移行期として注目され、双方の研究者が各自の立場から研究を蓄積してきた。しかし、近年は両者の対話が十分にできておらず、議論が深まっていないのではないかと。そこで、古代・中世を専門とする中堅・若手の研究者が、混沌とした研究状況を整理して、研究の最前線と展望を示す。

▶A5判・400頁／定価 5,060円(税込) ISBN978-4-7842-2066-3

説話研究を拓く 説話文学と歴史史料の間に

倉本一宏編

説話とは何か？まったくの創作でもなく古記録でもない、このつかみどころのない作品たちはなぜ生まれ、いかに編纂され、そして伝えられたのか。日本史学や日本文学、宗教学、文化史学の研究者が一堂に集い、「説話」という文学ジャンルを解明すべく企図された、国際日本文化研究センター共同研究の成果。

▶A5判・452頁／定価 9,900円(税込) ISBN978-4-7842-1967-4

失われた院政期絵巻の研究

苫名悠著

平安時代末期に制作された絵巻の諸作品は「院政期絵巻」と総称されるが、多くは史料にその名が見えるものの原本が失われており、美術史学の研究対象として取り上げられる機会は少ない。本書は、原本が失われた絵巻作品を積極的に取り上げ、模本によってその絵画表現を分析することなどを通じて、院政期絵巻の再評価を試みたものである。

▶A5判・358頁／定価 8,250円(税込) ISBN978-4-7842-2068-7

東寺執行日記 全三巻

東寺文書研究会編

執行(しぎょう)は長官僧である東寺長者系列の寺内の要職。堂舎・仏像・各種儀式の法具などの管理・保全の責任者であり、寺内の庶務を担当した。本日記はその公務記録で、鎌倉時代末期から近代にいたる長大な記録が残る。本シリーズではその中世部分を翻刻する。第三巻巻末には解説編として、解題・コラム・年中行事一覧等を収録。

▶A5判・平均320頁／各巻定価 15,400円(税込)

女かぶき図の研究

館野まりみ著

お国によって始められたかぶきは、その後、遊女たちによって模倣され、17世紀初頭の京都を中心に地方に広がった。近世の幕開けとともに絵画史に新しい画題やモチーフを提供することとなったお国や遊女によるかぶき—すなわち、女かぶき—は、どのような意味や役割を担って描かれたのか。同時代の鑑賞者はそれをどのように捉えたのか。

▶A5判・348頁／定価 7,700円(税込) ISBN978-4-7842-2074-8

釈迦信仰と美術 作品解釈の新視点

稲本泰生編

釈迦の「生」は、いかに捉えられてきたか。仏伝（釈迦の一代記）の物語、その舞台となった聖地、釈迦関係の聖遺物などにまつわる仏教徒の営為と文物の関係を、具体例に即して検証し、歴史上に位置づける。第一線の研究者13名が、釈迦イメージの形成・継承・変容の様相を横断的に浮かび上がらせ、新たな研究視点を提示する共同論集。

▶A5判・640頁／定価 13,200円(税込) ISBN978-4-7842-2037-3

日本的時空観の形成

吉川真司・倉本一宏編

空間認識・時間認識を形作るさまざまな要素——周囲を海に囲まれ、四季がはっきりと分かれる日本の地理的・気候的環境、中国から伝来した暦法と時刻制、あるいは政治制度、さらには仏教の影響など——を、文献史学、考古学、歴史地理学、国文学の研究者たちがそれぞれの視点から分析。日本的時空観の形成・定着の過程を明らかにする。

▶A5判・608頁／定価 13,750円(税込) ISBN978-4-7842-1892-9

日記・古記録の世界

倉本一宏編

日記とは何か、古記録とは何か、それらを記録することの意味、記主や伝来をめぐる諸問題、さらには古代・中世における使われ方など、単に日記・古記録を利用するだけにとどまらない意欲作35論考を収録した。国際日本文化研究センターでの3年間にわたる共同研究「日記の総合的研究」の成果。

▶A5判・792頁／定価 13,750円(税込) ISBN978-4-7842-1794-6

東寺百合文書

京都府立京都学・歴史館編

東寺百合文書とは、東寺に襲蔵されてきた、奈良時代から江戸時代初期まで約九百年にわたる、総数一万八千点・二万七千通におよぶ日本最大の古文書群である（2015年ユネスコ世界記憶遺産に登録）。本史料集には「ひらかな之部」刊行中の『大日本古文書』未収録の「カタカナ之部」を翻刻。

▶A5判・平均450頁／既刊16巻揃定価 171,000円(税込)

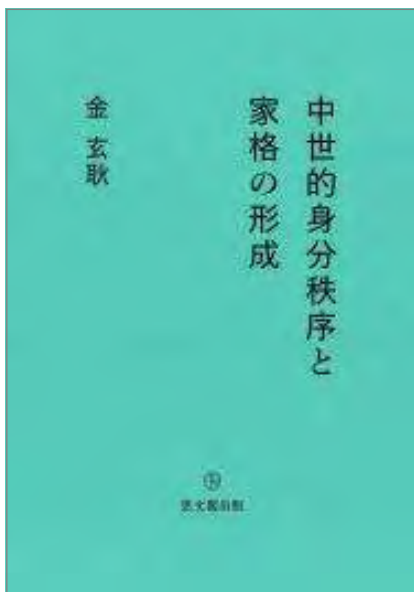
インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。 ※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。

金玄耿(韓国・明知大学校人文大学日語日文学専攻助教授) 著

中世的身分秩序と家格の形成

▶A5判上製・300頁／定価:9,350円(税込)

ISBN978-4-7842-2111-0



古代から中世への移行期とされる平安時代、平安貴族社会の身分秩序はどのように形成され、変化したのか。中世的な家格はいかにして出現するのか。

古代律令制の社会において、官人の身分を規定するのは天皇と官吏個人との関係であった。しかし平安時代には、個人ではなく血統や家系が身分を規定する単位として重要視されるようになる。父祖から続いた官位の継承は家の格付けにつながり、その子孫は家格に従って到達し得る地位を決められる。こうして血筋・種姓により定められる中世的な身分秩序が確立していく。

本書では、「貴種」「公達」「良家」という3つのキーワードを中心に、史書や古記録のみならず、詩序や南都寺院の文献など多様な史料を活用し、それらに表れた貴族の出自や身分に関わる言葉を辿っていく。その地道な作業から、言葉の意味やその対象が時代とともに変遷する「瞬間」を捉え、ひいては古代から中世への身分概念の変化と、家格の形成過程までも明らかにすることを試みる。

きむ・ひょんぎょん… 1984年、韓国・ソウル生まれ。京都大学大学院博士後期課程研究指導認定退学。博士(文学)。東京国立博物館アソシエイトフェロー、ソウル大学校講師(非常勤)等を経て、2025年3月より韓国・明知大学校人文大学日語日文学専攻助教授。主な論文「中世的身分のはじまり—種姓観念と家格」(有富純也・佐藤雄基編『撰関・院政期研究を読みなおす』思文閣出版、202年)ほか。

序章 古代から中世への転換と家格の問題

第一部 「貴種」と種姓観念

第一章 古代の「種」観念とその変遷

第二章 平安貴族社会と「貴種」

補論一 「蔭子孫」から「貴種」へ

第三章 藤原頼長の「凡種」観

第二部 「公達」と「良家」

第四章 家格としての公達の成立

補論二 実務官僚系院近臣の登用は身分秩序の打破か

第五章 平安時代の南都寺院社会と「良家」—興福寺維摩会研学堅義を中心に

第六章 平安後期における武士の階層移動—越後城氏の事例を中心に

終章

思文閣出版

撰関期古記録の研究

倉本一宏 著

2024年10月刊行

A5判・320頁／定価 8,800円(税込) ISBN978-4-7842-2107-3

日記とは何か、古記録とは何か？ 長く古記録に関わる研究を牽引してきた著者による、二十数年余りの間に発表された撰関期の古記録に関する論考と、新稿をまとめた論文集。古記録と具注暦を概観し、『小右記』の「記録」状況の仮説を提示する第一部、『小右記』や『御堂関白記』『権記』などの古記録とその写本の表記を詳細に比較分析する第二部、おもに説話に関わる論考から『小右記』の特異性や撰関期の「天皇」号を考察する論考までを盛り込んだ第三部で構成する。古記録研究の到達点を示すとともに、未来への礎となる一書。

【も く じ】

第一部 古記録の研究

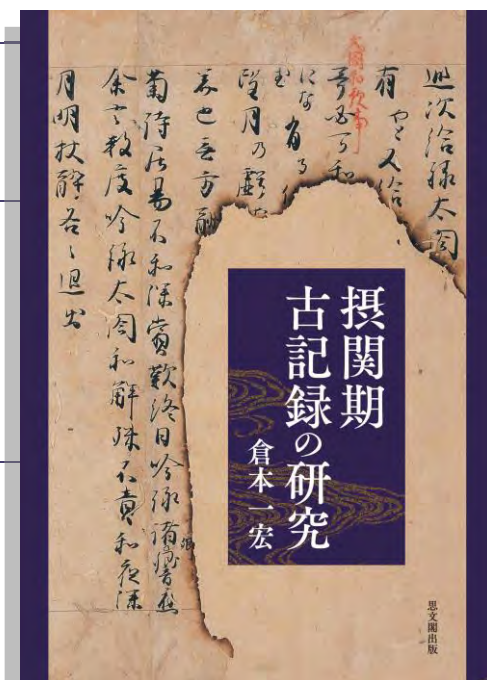
- 第一章 日記が語る日本古代史
- 第二章 『延喜式』と頒暦・具注暦
- 第三章 『小右記』の記録状況

第二部 古記録の分析

- 第一章 『小右記』の仮名
- 第二章 『御堂関白記』の仮名再考
- 第三章 『御堂関白記』古写本を書写した「某」
- 第四章 三条朝の公卿議定
- 第五章 『権記』に見える配偶者の表記
- 第六章 『小右記』に見える藤原実資の配偶者と表記

第三部 古記録と貴族社会

- 第一章 藤原兼通の政権獲得過程
- 第二章 「コノ話ハ蓋シ小右記ニ出シナラン」考—『小右記』と説話との間に—
- 第三章 平安貴族社会における「老い」
- 第四章 撰関期の君主号
- 終章 古記録研究の展望
- おわりに／人名索引／研究者名索引



くらもと・かずひろ…国際日本文化研究センター名誉教授。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町 355 tel075-533-6860 fax075-531-0009
<https://www.shibunkaku.co.jp> E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

〈無常〉の変相と未来観

——その視界と国際比較

荒木 浩 編

2025年3月刊行

A5判・864頁／定価 16,500円(税込) ISBN978-4-7842-2097-7

『方丈記』において、「無常」という語はただ一度だけ用いられ、天変地異の前にあきれるほど脆い日本の家屋と儚い人の命の類比的一体性を説く。いつしか私たちが常識のように捉えるこの仏教的な無常観は、先達としての東アジアや東南アジア、さらには起源としての南アジアと比べると、どれほど共通項を有し、あるいは異にするか。はたまたヨーロッパの堅牢な遺跡の中で、それはいかなる幻想をもたらすか。日本の無常、さらには文化観の現代的な問い直しのために、多様な専門の研究者が議論を重ね、「無常」概念にとどまらず、広く日本古典文化の転変と推移、また〈グローバル〉な〈アジア〉の中での日本古典文化の解明を目指す。

《も く じ》

序論 〈無常〉の変相と未来観・叙説 (荒木浩)

I 〈無常〉とは何か——その始原から現代世界へ

anitya/anicca、無常、常なし——インド・中国・日本における無常観の変遷 (石井公成) 打ち壊される仏たち——ソリッドな〈仏〉／フラジイルな〈仏〉 (佐藤弘夫) 照らし合う母子と「無常偶」——『釈迦金棺出現図』が投影する『源氏物語』の〈無常〉の表裏 (荒木浩) 戦後の近代超克論——唐木順三の無常を手掛かりに (廖欽彬) [コラム] 中世はいつから「無常の時代」となったのか——小林秀雄と戦後の「無常」 (藤巻和宏)

II 古代の文学と〈無常〉

「うつろふ」事物の「無常」性——大伴家持「悲世間無常歌」の〈たとえ〉をめぐって (土田耕督) 空海「無常之賦」から考える古典の変相と未来観 (河野貴美子) 「もの思ふ」人々の無常——物語の論理として (李愛淑) 紫式部はなぜ漢詩を詠まなかったのか (張龍妹) 無常と「老い」——『栄花物語』からの照射 (李宇玲) [コラム] 『源氏物語』における宿世と無常——「女の宿世はいと浮かびたる」を手掛かりに (石原知明)

III 中世の〈無常〉を問い直す

「跡」の視界 (木下華子) 龍神地震起因説の形成と展開——日本中世の災異文学史一斑 (児島啓祐) 「露の命」考——『平家物語』における無常観の表現を手がかりに (陸晩霞) 後鳥羽上皇の水無瀬殿 (水無瀬離宮) の構造と承久の兵乱後の動き (豊田裕章) 石清水八幡宮蔵「尼善阿弥陀仏諷誦文」考 (中川真弓) 真言僧における夢想と宗教的実践——覚鑊と頼縁を中心として (郭佳寧) 日元僧侶間で交わされた「六年の約」——弘安の役前夜 (榎本涉) 吉田兼俱『日本書紀神代卷抄』における世界認識——クニノトコタチをめぐって (高尾祐太) [コラム] 聖なる無常、俗なる折中——中世日本社会の意志決定と心性 (橋本雄)

IV 〈無常〉の表象と変相——古代／中世から近世へ

無常の表象——黑白二鼠の教えと絵画 (田村正彦) 遊女の〈移ろいやすさ〉をめぐって (辻浩和) ウブメという多面体 (木場貴俊) 能のシテは何を〈無常〉と嘆くのか (山中玲子) 謡曲「邯鄲」に見る二重の無常の表現 (虞雪健) 中世後期における狐による病とその治療 (小山聡子) 近世前期『徒然草』挿絵の影響関係 (池上保之)

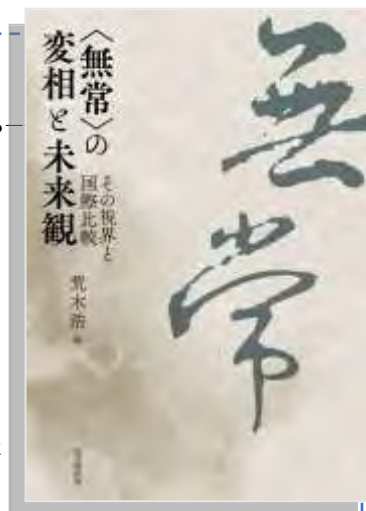
V 近代と〈無常〉——夏目漱石の中へ

頹杖の前近代と近代——もの思う者の肖像の系譜と変容 (永井久美子) 夏目漱石と「無常」——無常と生成変化を中心に (ブラダン・ゴウランガ・チャレン) 『方丈記』と漱石——「自然」をめぐって (増田裕美子)

VI 国際的〈無常〉論とその視界

エンタングルメントとしての無常——古典と人間との絡み合いをめぐって (エドアルド・ジェルリーニ) 神とかけて、天と解く。その心は？——『ルバイヤート』から考える無常における神と天への責任追及 (アリレザー・レザーイ) スーフィズムの神秘主義詩および日本の古代神話にみる時間の認識 (アンダソヴァ・マラル) Tea Ceremony and the Idea of Impermanence with Focus on Ceramic Tea Vessels Chatō 茶陶 and their Aesthetic Appreciation (茶道と無常の思想——茶陶の美的鑑賞を中心に) (Agnese Hajjima) Solidifying Impermanence: The Journey of the Buddha's Shadow-Image (ソリッドなる無常——仏陀の影像伝説追跡の旅) (Yagi Morris)

共同研究会開催一覧／執筆紹介



あらき・ひろし…国際日本文化研究センター教授・総合研究大学院大学教授。専門は日本古典文学。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町 355 tel075-533-6860 fax075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

苦名 悠 著

失われた院政期絵巻の研究

A5判上製本 カラー口絵8頁+348頁／定価8,250円(本体7,500円)

ISBN 978-4-7842-2068-7 C3071

平安時代末期に制作された絵巻の諸作品は「院政期絵巻」と総称され、現存する最古の絵巻群として、早くから美術史学の研究対象として取り上げられてきた。一方で、多くは史料にその名が見えるものの原本が失われており、これらの作品が美術史学の研究対象として取り上げられる機会は少ない。本書は、原本が失われた絵巻作品を積極的に取り上げ、模本によってその絵画表現を分析することなどを通じて、これらの作品を含めた院政期絵巻の再評価を試みたものである。



◎内容目次◎

- 序 章 本書の問題意識・課題と作品分析方法・構成
- 第一章 承安本《後三年合戦絵巻》の絵師明実と制作環境について
- 第二章 承安本《後三年合戦絵巻》の制作目的と院政期絵巻における位置について
- 第三章 後白河院政期における「似絵的表現」の機能をめぐって
- 第四章 《彦火々出見尊絵巻》に描かれた海辺の場景をめぐって
- 第五章 《勝絵》の美術史的 position について
- 第六章 《異本病草紙》の美術史的 position について
- 第七章 《福富草紙》における院政期絵巻の絵画表現の摂取について
- 終 章 院政期絵巻研究の展望

参考文献／初出一覧／あとがき／索引／英文要約

苦名悠（とまな ゆう） 1991年生。2018年、京都大学大学院文学研究科博士後期課程指導認定退学。2021年、博士（文学）。専門は日本中世絵画史、特に院政期絵巻。大阪大谷大学文学部専任講師を経て、2023年より佛教大学歴史学部講師。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
<https://www.shibunkaku.co.jp> E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

井戸美里(京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系 准教授) 編

名所の誕生

「名」を与えられた風景

▶A5判上製・272頁／定価:8,800円(税込)

ISBN978-4-7842-2113-4

「名所」は最初から名所であったわけではない。それでは「名」はいつ、誰によって与えられたのであろうか。

たとえば、和歌に詠まれた歌枕や、遠くの景勝地を模した「見立て」の名所、社寺や霊場といった巡礼地、漁村の生活風景、植民地期の朝鮮等々……「名所」は多彩である。

時代の変遷とともに、文化・宗教・政治などさまざまな要因が絡み合い、さまざまな場が名所となり、文学・絵画作品や紀行文、案内記、写真などに写し取られてきた。

本書では、そうした史資料をもとに、それぞれの土地が「名所」となる過程を明らかにすることで、「名所」のなかに時代や土地を超えて存在する普遍性、「名」の本質を探る。



いど・みさと…京都工芸繊維大学デザイン・建築学系准教授。おもな著書等に『東アジアの庭園表象と建築・美術』（編著、昭和堂、2019年）、「歴史画における有職故実と図案教育」（『五浦論叢』25号、2018年）『戦国期風俗図の文化史—吉川・毛利氏と「月次祭礼図屏風」』（吉川弘文館、2017年）ほか。

はじめに

I ことば——見立てられる名所

平安時代に描かれる中国の「名所」（武瀟瀟）

山水と見立ての構造——琵琶湖が名所になるとき（井戸美里）

II 物語（ナラティブ）——記憶がつくる名所

記憶風景の名所——『平家物語』にみる安元の大火（1177）の語り（林かおる）

最後の札所——坂東三十三所と那古寺（岩本馨）

III 風俗——営みがつくる名所

浅間大社蔵富士曼荼羅の位置づけ——名所風俗図の成立をめぐる（並木誠士）

近代鎌倉における名所風景へのまなざし（赤松加寿江）

IV 都市——開発される名所

幻の名所——大阪城公園と離宮計画（小野芳朗）

写された名所——植民地朝鮮の写真葉書と「芸術写真」を中心に（金桂園）

V 接触——近代化する名所

名所を作る——明治期京都の都ホテル（福永愛）

風景と景観の使われ方の変容（中川理）

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009
<https://www.shibunkaku.co.jp> E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

下記、必要事項をご記入の上、FAXでご送信ください。

中古文学会
オンライン
特販

販売期間：
～2025/5/31まで

割引販売のご案内

送付先ご住所
お名前

電話：

FAX：

e-mail：

連絡先
(勤務先)

tel

fax

▶お渡し・送本・お支払い方法（いずれかをお選び下さい ご指定がない場合は①になります）

①代金引換便にて送本 ※配達時に配達員に支払（クレジットカード使用可能）

②前払い。入金確認後送本 ※折り返し入金先をお知らせいたします

③大学・研究機関へ送本。公費払い ※大学・研究機関の公費のみ対応いたします

▶未刊書籍の発送について（☐既刊書とまとめて発送 ☐既刊書とは別途発送）送料は発送ごとに加算いたします

▶公費の場合下記に必ずご記入下さい

大学・研究機関名（ ）

必要書類（納品書 通 請求書 通 見積書 通）書類押印（要・不要）

書類宛名（ ）日付記入（要・不要）

ご注文以外のご住所変更などの
場合は右にチェックして下さい

☐新刊案内お送り先住所変更 ☐以後新刊案内不用

■同意事項■（必ず下記事項をご覧いただき、ご同意の上お申し込みください）

・私は、思文閣グループの「個人情報保護方針」および「個人情報の取り扱いについて」を確認した上で、提供する個人情報の取り扱いについて同意します。

（「個人情報保護方針」「個人情報の取り扱いについて」は <https://www.shibunkaku.co.jp/privacypolicy/> をご覧下さい）

FAX 075-531-0009

書名	部数	
		公費・私費
		公費・私費
		公費・私費
		公費・私費
		公費・私費
		公費・私費
		公費・私費

〔送料〕 お買い上げ税込価格

20,000 円未満 — 900 円

20,000 円以上 — 無料

大学・研究機関の公費以外のご注文については、
全て代金引換便か前払いでお送りさせていただきます。
これまで後払いでお送りしていた方も、後
払いはできませんので、何卒ご了承下さい。

☐PR誌鴨東通信（年2回刊・無料）希望

☐メールマガジン希望
（電子メールで最新情報を配信・無料）

株式会社 思文閣出版

<https://www.shibunkaku.co.jp/>

〒605-0089 京都市東山区元町355
TEL 075-533-6860 FAX 075-531-0009
pub@shibunkaku.co.jp